

夜間中学は、様々な理由により義務教育を終了できなかった人や、不登校等のためにほとんど学校に通えなかった人、また本国で義務教育を終了していない外国籍の人などが学ぶことができる学校です。

鳥取県では、ニーズ調査を実施した結果、中学校の学習が十分にできなかった人のうち、「今からでも中学校で学び直したい」と回答した方が一定程度あったため、県立の夜間中学をつくることを検討しています。

【これまでの経緯】

- ・ 学齢期を経過した者であって学校における就学機会が提供されなかったもののうち、全国的にその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、就学の機会の提供が求められるようになった。
 - ※平成 28 年に「義務教育段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が成立した
 - ※平成 29 年 3 月文部科学省基本方針策定「少なくとも各都道府県に一つの夜間中学の設置」が示された
- ・ 鳥取県では平成 30 年度と令和 2 年度に、はがきや電子アンケート等でのニーズ調査を行い、本県にも夜間中学の設置を求め一定程度のニーズがあることを把握した。

鳥取県立夜間中学のイメージ

鳥取県立夜間中学は、中学校での学び直しを求める方を対象として中学校に相当する教育を受けることができる、鳥取県にこれまでにない形の中学校です。

○鳥取県立夜間中学も、今ある中学校と同じ、公立の中学校です。

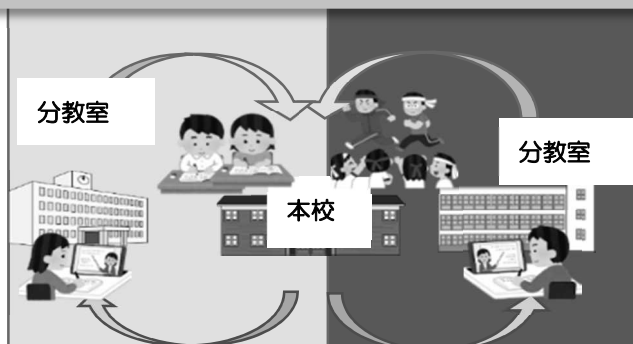
- ・ 授業料は無償です。
- ・ 週5日、毎日授業があります。
- ・ 今ある中学校と同じ、9教科の学習をします。
- ・ 教員免許を持っている公立中学校の先生が授業を行います。
- ・ 全ての課程を修了すれば、中学校卒業資格がもらえます。（卒業までの期間は1年～3年以上）

＜鳥取県立夜間中学の特徴＞

- 入学できる方
 - ・ 戦後の混乱期の中で、様々な事情により、小学校や中学校に行くことができなかった方
 - ・ 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍の方
 - ・ 中学校を卒業したが、不登校などの理由により、ほとんど学校に行けなかった方
- 「本校」のほか「分教室（サテライト）」を設け、オンライン授業などを組み込むことで、県内どこに住んでいても学ぶことができます。（開校後に整備予定）
- ICT（情報通信機器）を積極的に使った新たな学びに取り組みます。

【夜間中学のイメージ】

本校や分教室で、多くの先生、友達と一緒に勉強や学校行事を行います。



ICT を活用したオンライン授業や個に応じたきめ細かな学習を行います

● 17:00	とうごう 登校
● 17:25	ホームルーム
● 17:30	いちじかんめ 国語 こくご
● 18:10	きゅうしょく 給食
● 18:40	にじかんめ 英語 えいご
● 19:25	さんじかんめ 家庭科 かていか
● 20:10	よじかんめ 数学 すうがく
● 20:50	ホームルーム
● 21:00	げごう 下校

←時間割のイメージ



（文部科学省フライヤー「夜間中学を、知っていますか？」より）

鳥取県立夜間中学等に関するアンケート調査及び調査結果の概要

令和3年3月31日集計時点

小中学校課

1 調査概要

(1) 調査の対象及び内容

鳥取県内在住の、①義務教育未修了者、②外国籍の者、③入学希望既卒者、④不登校となっている学齢生徒、上記①から④に対する支援者・保護者等を対象に、①本人用、②支援者・保護者用の2種類のアンケートを用意し、調査を実施（調査期間：令和2年12月3日から令和3年2月26日まで）。

【本人用アンケート】

日本語、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、ベトナム語の6種類の言語で、年齢・国籍・居住地等の属性を尋ねた上で、県立夜間中学が設置された場合の通学希望や、通学するとした場合の県立夜間中学の形態、通学可能な時間帯等を尋ねる内容のアンケートを作成。鳥取県電子申請サービスと紙媒体による2通りで実施。

【支援者・保護者用アンケート】

周りに夜間中学のことを知らせたい人がいるかどうか等を尋ねる内容の支援者・保護者用アンケートを作成。とっとり電子申請サービスと紙媒体による2通りで実施。

(2) 調査方法

多くの方から回答が得られるよう、関係する支援者(団体)の掘り起こし・訪問を行い、アンケート調査が入学対象者に届くようにするとともに、多くの方が回答しやすいよう、電子アンケート（県電子申請サービス）を活用し、新聞広告にQRコードを添付したり、SNSで周知を図ったりするなどの工夫を行った。

- ・支援団体等を訪問しての調査回答依頼（24施設、延べ30回訪問）
- ・アンケート配架（依頼）（246施設）
- ・SNS広告（929万回の表示回数、1.1万回のリンククリック）※広報課事業
- ・新聞広告（令和2年12月12日(土) 日本海新聞）※広報課事業

2 回収件数

回答総数337名（本人121名、支援者・保護者216名）

【本人用アンケート】

121件（とっとり電子申請サービスによる回答：73件、紙媒体による回答：48件）

<回答者の属性>

①義務教育未修了者2件、②外国籍の者5件、③入学希望既卒者50件、④不登校となっている学齢生徒22件、①から④に該当しない者41件、回答なし1件

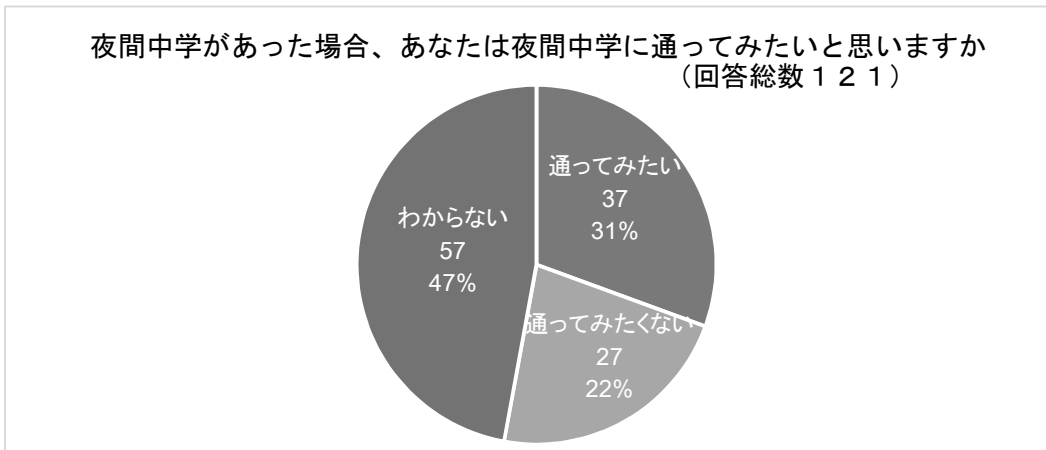
【支援者・保護者用アンケート】

216件（とっとり電子申請サービスによる回答：99件、紙媒体による回答：117件）

3 アンケート結果の概要

(1) 本人用調査

本人用調査の回答121件のうち、37件(31%)が「夜間中学があった場合、通ってみたい」という回答。

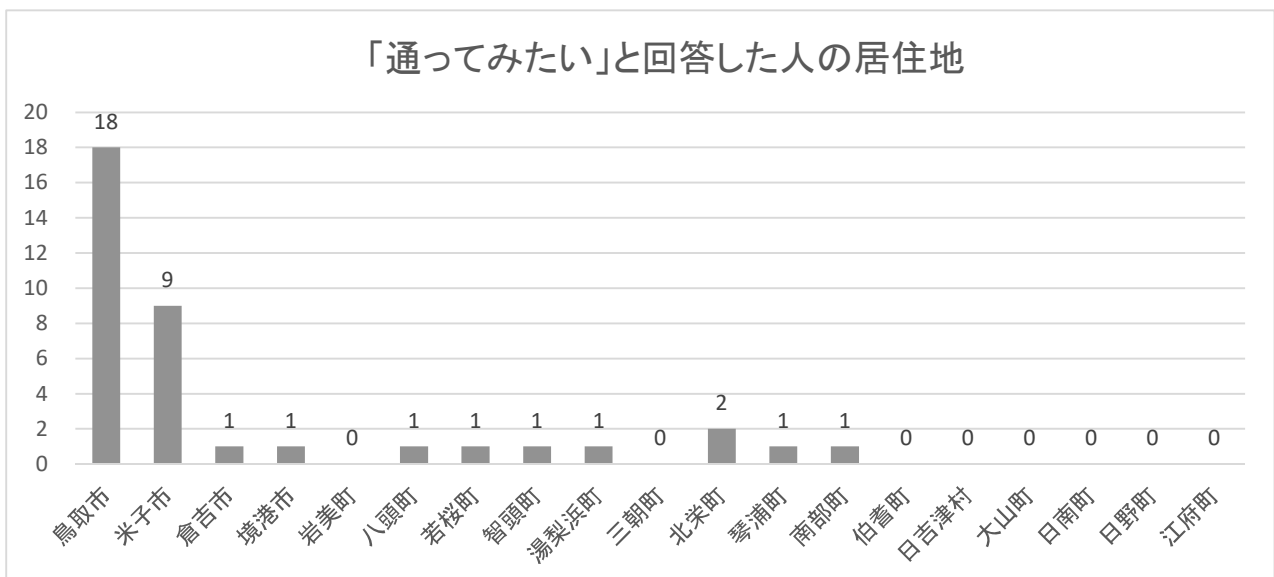


<「通ってみたい」と回答した人の属性>

区分	義務教育未修了者	外国籍の者	形式的卒業生	不登校の学齢生徒	その他	未回答	合計
通ってみたい	1	3	19	4	10	0	37
通ってみたいくない	1	0	8	7	11	0	27
分からない	0	2	22	11	21	1	57

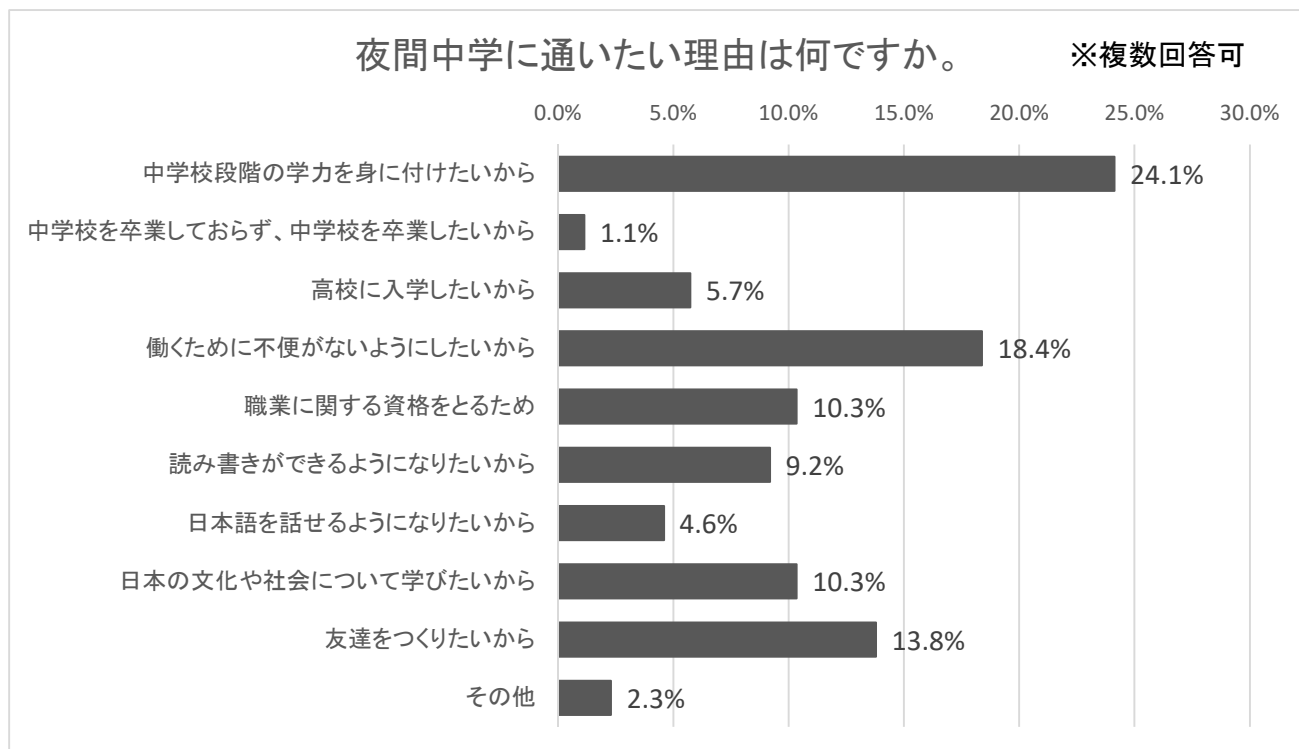
- ・義務教育未修了者1名(鳥取市)
- ・外国籍の者3名(鳥取市1、米子市1、境港市1)
- ・形式的卒業の者19名(鳥取市9、米子市4、倉吉市1、八頭町1、智頭町1、北栄町1、琴浦町1、南部町1)
- ・学齢期の不登校の者4名(鳥取市1、米子市1、若桜町1、湯梨浜町1)
- ・選択肢にあてはまるものがない者10名(鳥取市6、米子市3、北栄町1)

<「通ってみたい」と回答した人の居住地>



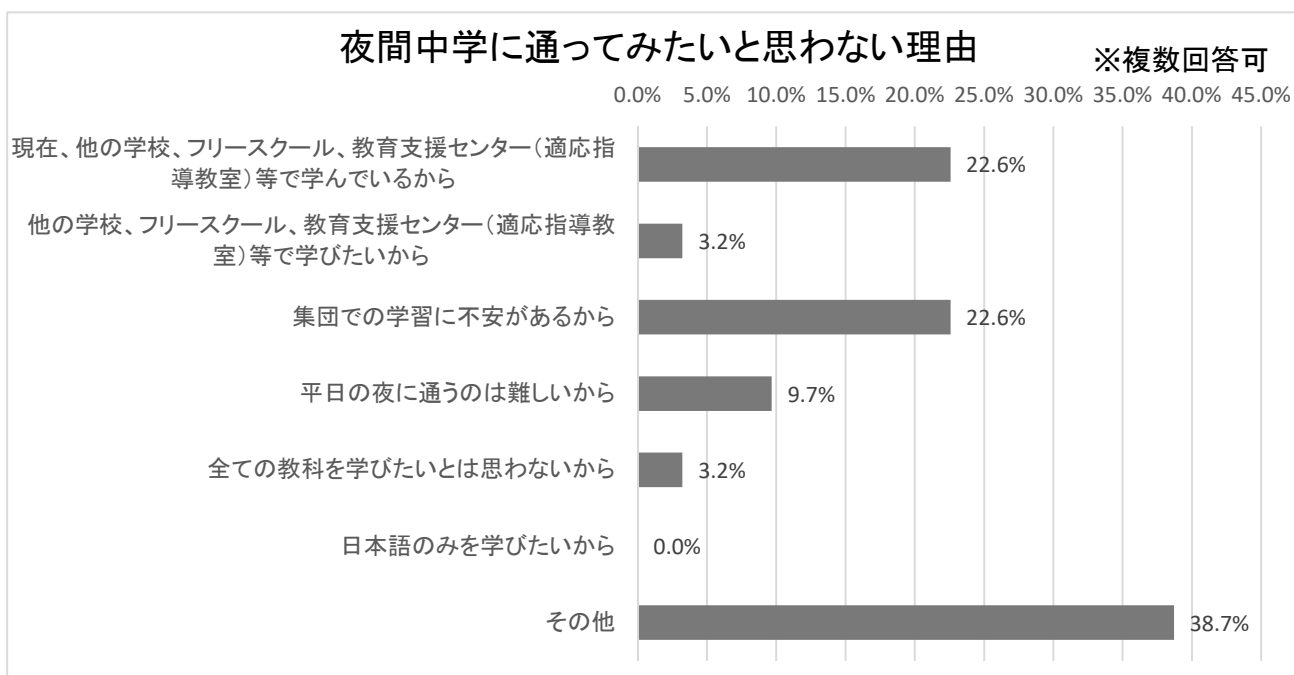
○夜間中学に通いたい理由

「夜間中学があった場合、通ってみたい」と答えた人の理由としては、「中学校段階の学力を身に付けたいから」が24.1%で最も高く、次いで「働くために不便がないようにしたいから（18.4%）」、「友達をつくりたいから（13.8%）」となっている。



○夜間中学に通ってみたいと思わない理由

「夜間中学があった場合、通ってみたいと思わない」と答えた人の理由としては、「その他」が38.7%で最も高く、次いで「現在、他の学校、フリースクール、教育支援センター（適応指導教室）等で学んでいるから（22.6%）」、「集団での学習に不安があるから（22.6%）」となっている。



(2) 支援者用アンケート

支援者用調査の回答216件のうち、「夜間中学のことを知らせたいと思う人がいるか」という質問に対し、「思いあたる人がいる／場所（団体、職場など）がある」という回答が59件、「身近にいる」という回答が50件寄せられた。

夜間中学のことを知らせたいのはどのような者かについては、①義務教育未修了者4件、②外国籍の者19件、③入学希望既卒者62件、④不登校となっている学齢生徒66件となっている。

夜間中学のことを知らせたい者の年代は10代が66件、20代が19件、30代が14件、40代が6件、50代が4件、60代以上が7件となっている。

